

久ヶ原教会 家庭礼拝のしおり

新型コロナウイルス感染症の拡大——この時を危機として受け止めると共に、自らを省み、主と対話しながら、この世界を生きる勇氣、主の知恵、主のメッセージに耳を傾け、心と身体と魂を養う時としていただきたいと思います。

明けない夜はありません。どのような時にも、不安と恐怖が終息する時が来ます。それまでは苦しいですが、その時が来るのを信じて、みんなで助け合ってください。

お一人お一人が、ご家庭が、職場が、神様の守りと平安に満たされますようにお祈りいたします。闘病している方、医療関係者、そして影響を受けているひとりひとりの心と体を、神様が守り、養われますように。

久ヶ原教会牧師 藤崎義宣

黙想のすすめ

困難と危機の中で、聖書を読み、黙想・内省することで、自らと対話し、魂と知恵を養うことができます。古代イスラエルの人々も初代教会の人々も、恐れと困難の時代を生きる中で、聖書の言葉に耳を傾け、祈りと瞑想のうちに、自らと世界に対する認識を深めました。それがより良い世界、命と幸に満ちた世界を作り出す原動力となってきました。

いまを生きる私たちも、危機的な状態の中で、聖書を心をしずめて読むことで、慰めと励ましと与えられることと思います。さらに、自らの認知が変えられることで新しい視点と可能性へと導かれ、今の時代を生き抜く力と方向性を手に入れます。私たちにとって神の知恵である啓示の源であり、真実を基にした対話の相手—聖書—とこの機会にじっくりと向き合ひましょう。